

お天気解説

アキラのズバツと

温暖化による影響シリーズ

「海洋と大気は相互関係」その1

海面水温と季節予報

令和5年11月2日

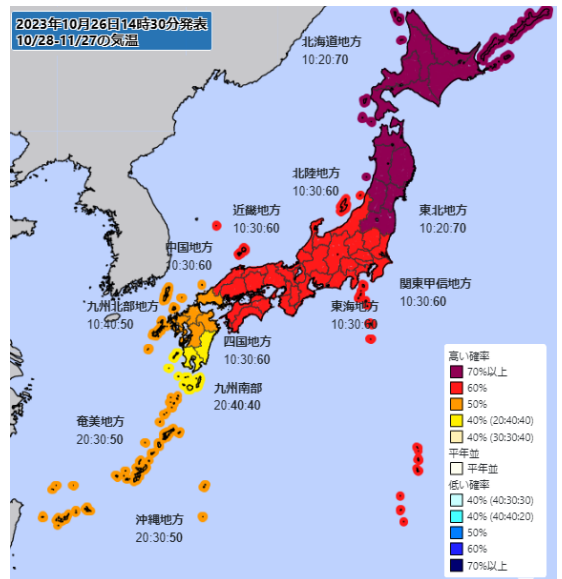
江戸川区気象防災アドバイザー 藤井 聡

秋も深まってきました。澄んだ青空の向こうには、山頂に雪をかぶった富士山が見える日がありました。冬が近づいてきましたね。

先日、気象庁からこの冬(12~2月)の「寒候期予報」が発表されました。寒候期予報は、気象庁が発表する季節予報の1つで、毎年9月と10月の下旬に、冬の気温、降水量、降雪(日本海側)について発表する情報で、予報は確率(%)で表されます。関東甲信地方のこの冬の気温予想は、気温が高くなる確率が60%です(詳しい見かたは気象庁HP [季節予報](#)のページを参照してください)。

季節予報は大気の実況と、海洋の状況をスーパーコンピュータに入れて予測値が計算されます。それは、海面水温が大気の状態に影響し、天候の変化に深くかかわっているからです。今年は南米ペルー沖の海面水温が上昇しエルニーニョ現象が発生しています。このような年、関東地方は暖冬になる傾向があります。

暖冬の年は冬型の気圧配置がくずれて南岸低気圧ができやすくなる場合もあり、関東南部に雪を降らせることもあります。暖冬だった昭和44年は南岸低気圧による大雪が2回発生し、都内の鉄道が全線でストップしました。夕方、通勤客は30cm以上の雪上をとぼとぼ歩いて帰りました。路上ではスキーを楽しんだ人もいたほどです。区内でもそんな思い出をお持ちの方がいるのでは・・・?



この冬の気温についての寒候期予報 (気象庁HPより)

2023年11月02日11時 気象庁 発表				
日付	明日 03日(金)	明後日 04日(土)	05日(日)	
東京地方	晴	晴時々曇	曇時々晴	
降水確率(%)	0/0/0/0	10	30	
信頼度	-	-	A	
東京 気温 (°C)	最高	25	26 (24~27)	24 (23~26)
	最低	12	14 (11~17)	15 (14~16)

東京地方の週間天気予報より

気象庁HPから抜粋

(週末は最高気温が25°Cにも・・・)

今回の温暖化による影響シリーズは、「海面水温の上昇で天候が変化する」です。